

臣

四年

画数 7
筆順
フン

一 尸 臣
シン・シン

成り立ち



目を大きく見開いた形をよこから見た形の字で、「目を見はる」こと、または「見はり番」という意味を表した字です。「臨(年6104)」「覧(年6101)」などの字に使われています。

「見はり番」をするのは「家来」がする仕事ですから「臣」は「家来」の意味、または「役人」の意味にも使われるようになり、今はその意味に使われています。【例】家臣、臣従、重臣、大臣。

使い方

- ▽大久保家は、徳川家の重臣でした。
- ▽今の文部大臣は、〇〇〇〇という人です。
- ▽十二月十四日は、『忠臣蔵』の討入りの日です。

熟語例

- ▽家臣(家来。家につかえる人)
- ▽臣従(家臣として従うこと)
- ▽重臣(重要な地位にある家来)
- ▽大臣(天皇の家来として、政治をつかさどる重臣。むかしは、左大臣、右大臣、内大臣、太政大臣などの位がありました。今の大臣は、国会議員の中から選ばれ、天皇によって任命される内閣総理大臣をはじめ、大蔵大臣、文部大臣など、各省の長官です。)
- ▽忠臣(忠実な家来)
- ▽功臣(手柄のあった家来)
- ▽乱臣(君主にそむいた家来)
- ▽旧臣(ふるくからの家来。また、むかしの家来)
- ▽老臣(年をとった家来)

使い方

- ▽友だちどうしの間では信頼が大切です。信義を守れば人が信用してくれます。信頼される人になって、大勢の友だちを作りたいですね。

熟語例

- ▽信義(ことばにいつわりがなく、義務を果たすこと。)
- ▽忠信(まごころをつくし、いつわりがないこと。「あの人の忠信の心は、まことに立派だ」などというふうにつかいます。)
- ▽信用(相手のことばをまことと思つて、うけいれること。「あなたのことばを信用しましょう」などというふうにつかいます。)
- ▽信頼(信用して頼ること。「君を信頼して、まかせよう」などというふうにつかいます。)

- ▽信号(ことばを、光や音などによって、相手につたえる方法。「手旗信号」「交通信号」など、いろいろあります。)
- ▽通信(電気を利用して、ことばを伝える方法)
- ▽信書(手紙のこと。)

信

四年

画数 9
筆順
フン

人 仁 信 信
シン

成り立ち



「ことば」の意味を表した「言」と、「人」のすがたを表した「イ」とを組み合わせて作った字です。

人のことばにうそいつわりがあつてはなりません。「真実」であることがなによりもたいせつだということ、「真実(まこと)であること」を表したものです。

「ことばがまことである」こと。「ことばにうそいつわりがない」こと。【例】信義、忠信。

「あい手のことばをまことであると思つてうたがわない」こと。【例】信用、信頼。

また、「ことばをあい手に正しくつたえる」ことの意味にも使います。【例】信号、電信、信書。